

緑の宝

■発行 静岡県造園緑化協会

■発行日 平成6年5月31日

■印刷 黒船印刷株

県造協の活躍に期待して

静岡県知事 石川嘉延



静岡県造園緑化協会の皆様方には、日頃から本県の環境緑化行政の推進に御協力を賜り、心から敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

今日、環境問題に対する関心は年々高まり、地球規模の問題から、身近な生活環境問題まで、幅広い論議が行われておりますが、県におきましても、貴重な自然の保護と快適な生活環境の創造を図るため、各般の環境施策に積極的に取り組んでいるところであります。

また、本県の先人達のため、みない努力によって築き上げてきました、美しい自然と心暖まる三七〇万県民のふるさと静岡県を、市町村との密接な連携のもとに二十一世紀へ

継承し、これまで以上に素晴らしい静岡県の実現を目指す「新たな県づくりの指針」とする「総合計画」の策定に着手したところであります。

長寿化・少子化社会を迎え、これを支える豊かで潤いのある県づくりのためにも、緑化は欠かせない要素であり、新たな社会資本の整備として、その需要は一層増大してくるものと予想しております。

同時に、より自然に近い緑地の造成や、野鳥や昆虫の生息する緑地を結ぶ緑のネットワーク化など緑化の考え方も多様化しております。

これらに因應するため、緑地の量的拡大はもとより、緑地の質的向上を加味し、緑が地域の個性ある豊かな景観を形成するような環境緑化行政が必要であると考えております。

貴協会におかれましても、これまでと同様、緑化技術の向上や知識の普及に多大の御協力を賜りたくお願いする次第です。

結びに、県造園緑化協会の益々の発展と会員の皆様の一層の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

座談会

造園業の現状と展望

●出席者

岡田純夫氏

浜松市公園緑地部

吉名富士雄氏

浜松市公園建設課

中村浩一氏

浜松市公園緑地部

森福満氏

園管理事務所技師

中澤一夫氏

県立磐田農高造園

乗松文男氏

協合理事長

福井啓介氏

協企企画委員

内海登良氏

協企啓蒙委員

司会

内海登良氏

協会啓蒙委員

協会企画委員

内海登良氏

協会啓蒙委員

協会啓蒙委員

協会啓蒙委員

浜松市公園緑地協会の後援を受け持つまい語ら

司会 内海 登

内海 はじめに、私共業者の抱えている悩みや、解決のためのご努力をお聞かせ願います。

福井 この不況を乗り越えるには知恵を出し、合理化、近代化し労働生産性を高めることだと思います。その根底には優れた技術開発が必要で挑戦していかうと思っております。

乗松 人材確保が一番困っています。最近の人は賃金より定時に帰りたいと云います。この業界は屋外労働が中心で、終ってからの書類整理を残業してこなしているの、何とかしては思っています。最近、官公庁の書類も次第に簡素化してくれるようになり、有難く思っています。女性の入社希望も時々あるが、屋外労働が多く肉体的労働を求める職場環境が多いので、採用は難しいです。

内海 一番の問題は、人材確保と教育だと思っています。この産業にどれだけ意欲をもち活動できる人をつくるか、楽しい職場環境をつくるかだと思います。そのためには、指導的立場にある管理職の方々の再教育もしていかなければならないと思っています。

浜松市の方から造園業界に對し、日頃感じている点や市の取組みなどお聞かせいたさないでしようか。



岡田

県造園の資料にある様に、緑化技術向上を重視していることは一番大切なことだと思います。植栽工事だけでずと造園業者のこなされたでもできますが、土木や建築工事が入ってくると中小の造園業者の方には敬遠する声があるようですので、指名推薦がしずらくなります。植栽以外では儲からないでというところらしいようです。しかし、土木や建築工事が入っているも、例え下請でも監督できるような足腰の強い企業になっ

てもらいたいのです。そうなれば、皆さんの仕事も増えて来ます。また、技術研修ばかりでなく、官公庁の仕様書をよく理解して欲しいのです。仕様書をよく勉強して実行されていくのも、企業評価の材料となります。さらに、今後多様なニーズの中で新技術開発提案が望まれて来ているので、どしどし提案をしていただきたいと思っています。建設物価版に記載されていないようなもの、新しいすばらしい物がある場合があると思います。それは皆さんの方がずとよく知っておられると思いますので、是非とも提案をしていただきたいと思

ます。そのことがまた仕事の拡大につながるでしょう。造園技術者の問題ですが、一つは現場が屋外で大変だというところ、もう一つは造園工の賃金が低いということです。過去に普通作業員より低かったことがあり、その時は大変ショックを感じました。三省協定で賃金の実態を調べ決めているのですが、これは造園業者の責任だと思います。皆さんの方から賃金を上げて

くれれば、役所も当然上がります。私達も造園業者の地位の向上につながるので歓迎します。造園管理については、今技術者がやらない傾向の様子で、そのため仕事が少ないなっていることもあるのではな



吉名

公園工事は、土木工事と合わせた工事が増えつつある

必要のことだと思います。もう一つ大切なことは、自分達造園業者が拠り所とする技術を持たないといかんと思います。一口に造園と言っても幅が広く、植物材料、園芸的知識を要求するものの外、ピオトープやアーバングリーン的な都市空間の造成、子供の遊び場をどうするかなど、色々のニーズが出ています。また、今迄公園と云うと自然保護、或いは都市計画分野で扱ってききましたが、最近では農林や福祉関係でも色々の公園が造られるようになり、どこでやられても造園的センスを要求されるようになってきております。その時、確固たる技術の拠り所を持たないと他業種の方へ仕事が行ってしまいます。

岡田 浜松市の現状についてお話しすると、緑をつくることについては公園建設課と緑



中村

土木技術を磨くことも土木業者との競争上、

化推進課が担当していますが、緑化推進課は街路樹をはじめ、公共施設や民間施設の緑化を行っています。街路樹は、現在二万七千本位あり、平成七年度までに三万本にしようとしています。その中で多いのは、計画街路や都田、佐鳴湖などの区画整理地区です。また、学校、福祉施設、公民館など公共施設緑化についてはグリーンバンク制度を利用して、施設管理者独自の予算で緑化をすすめるなど、積極的に緑化に取り組んでいます。市内に施設をつくる時には、必ず緑化してもらうという体制で設計段階より緑化推進課が関わっています。それは、公園や街路樹だけに頼り、また用地取得も簡単に行かないからです。現在工事が進んでいるアクロスシティも屋上緑化を施工しますが、成功すれば屋上緑化、人工地盤緑化が今後どしどし出てくると思います。今度は官民学が協力して緑化を進めていけば、仕事も増えていくと思います。また、浜松市には事業所緑化助成制度があり、緑化する

百万円を限度として樹木費の1/2の助成することを始めましたので、利用してもらいたいと思います。色々相談事がありましたら、一緒になって進めていきたいと思っています。



森 今年、三
十六名の
造園科の
生徒がい
るが、約

半数が造園の方へ就職しております。土木の方も同じ傾向ですが、造園の方も少しずつ増えています。学校では膨大な造園技術を短期間で学校で教えることは困難ですので、過去のような完成教育を目指すのではなく、三年間で造園が面白くなるような啓蒙教育に重点を置いています。静岡農高では、庭の依頼を受け実習に取入れているようで、非常に良いことだと思っています。二年生の終わり頃までは、全然進路が決まらずに、三年生

の後半となつて出てくるのが通常です。早くから就職先を決めている生徒は地元の大手の企業のヤマハ、東洋ペーリーなどへ行きます。造園業者の経営改善は非常に大切な事だと思っています。折角造園を学んできた生徒が他業種へ行きたいと言った時、それを止め、造園の方へ行つたがよいと学校側で言えるような業界の態勢をつくつていなければ、

と思います。そうならば、学校側も指導がし易くなりま

す。大体現は、安定した企業に入れたというのが普通ですが、生徒をみると大きい企業を敬遠し、ラインに就きたくない、一から教えてくれる会社がよく言っています。そして自分は将来独立したいと言っている者が多いです。学校側も親身になって生徒の将来を考えて送り出さねばならないので、この造園業界は零細規模が多いので心配しています。君が将来、給料取りになりたいのなら相当規模の企業へ行つたがよい、そうでなかったら、将来一人で独立する気構えでやるようにと話をしています。造園希望の中でも公園

関係、或いは個人庭園関係と希望が分れても、いずれも生徒は将来独立一人立ちしたいと云っています。今、造園分野は土木分野との境がなくなつてきていますし、また切り離して考えるべきでないと考えており、学校でもそのように対応して教育しています。



中澤 造園業者
と土木業
者の関係
の話が出
ましたが、

私が曾て市役所にした頃、造園業者はせめて園路の作り方ぐらゐは勉強するよう言つたことがあります。実際に園路の線型が上手にできるのは土木業者であり、造園業者ではありません。これは造園業者ではなく植木屋にすぎません。私は皆んながランドスケープアーキテクトチャー

ンになってもらいたいと思っています。小さい所へ行きたがるという

お話しがありましたが、これは造園業の内容をよく理解してくれないからではないでしょうか。市の方への注文は、造園工事の中に土木工事が入っている土木業者にやらせてしまふことですよ。先ず、造園業者にやらせてみて悪い点があつたら叱つて直せば良いと思います。そうしないと造園業者の発展は寛東ないと思います。その点は官の方で見直す必要があると思います。

造園業者の方も植えれば良いという、ずるい考えを持つてはいけないと思います。県造協の中に色々委員会があるよ

うで、これらの内容を総てやれば人材確保も解決できると思います。企業は技術者が良く勉強できる環境をつくつてやるべきです。企業の幹部の人は少なくとも、造園関連の専門書、学会誌、雑誌などが読めるような配慮が欲しいですね。全部を目を通さなくても、目次を見ただけでも役立つと思います。そうしたことが、また技術者に興味を更に持たせることに繋がります。また、技術者自身も周辺に学ぶべき材料は一杯

あるのだから、勉強しないとイケませんね。カメラ、スケール、野帳さえ持つていれば資料の集積はできるし、自らが肌で感じ取ることもでき興味も湧いてくると思いますよ。

それと造園業者の最大の強味は植物に関する知識、技術だと思ひますので、他業種に絶対負けないものを持ち、自信をもつて進めてもらいたいと思ひます。造園業に何故人材が育たないかと云うと、大手の人達が仕事を取つてしまい、実際の仕事は下請にやらせているからだと思います。下請が一生懸命やつているのが現状です。この仕組を変えていかないと零細な造園業者の旨味がなくなつてしまいます。

内海 業界の方から何かアピルしたいことがございませんでしようか。

福井 貴重なご助言をいただき感謝しています。浜松市の場合には相当規模の工事の発注にも造園業者が入れるよう気を使つていただき感謝しています。一般には、造園業種は小規模、多工種、土木建築工事との連続性のない一時の点的工事が多いので努力はして

いますが、合理化が仲々難しいのが現状です。役所の発注も年度末に集中したいという平準化していただきたいという思いです。と云いますのは、造園材料は生き物を中心に取扱いますので、植栽時期や天候に左右されるからです。人材確保に大変苦慮していただくこと、若者が屋外作業を嫌うこと、加えて老齢化など課題を多く抱えています。

中澤 東京方面の造園業者は、土木や建築分野に積極的に入りこんでやっていると聞いていますが、どうも県内の造園業者の人は遠慮ばい人が多いのではないのでしょうか。

福井 中澤さんより云われた通りで私も反省しています。県内では内弁慶であると思えます。もつと外に対して挑戦的企業になって欲しいです。造園業者がいつでも下請でよいわけはありません。そのためには土木でも建築でもやれる技術武装をしないとダメですね。

岡田 福井さんの云われたような事が分かってくれたら、造園の仕事は増えてくると思

います。多品種だから小規模と限らないと思います。多品種でも大規模なものも沢山ありますよ。植栽が少なく、他のものが多いため敬遠するようでは駄目で、みんなが嫌がる多品種のものを逆手にとつて積極的を受け入れるようにすれば、小さな仕事ばかりでなく、大きな仕事が取れると思います。そのためには、足腰の強くするような技術開発をしていただきたいと思

います。造園材料の時期の問題は今後とも検討していきたいと思えます。ナンキンハゼは冬場に植栽すると枯れ易いので四〜五月に発注し、入梅前に植栽してしまつとか、大木は夏頃発注し秋植えにすると、樹木の性質を考慮して計画補助のある事業のような制度的なもの、平準化が難しいこともありますが、市の単独事業や、グリーンバンク事業などは植栽適期を考え、平準化を考え計画をしています。そうですね、業者の評価点数も上ると思いますが、努力して欲しい

いのです。土木分野では、積算や図面作製はO/A化が進んでいますし、作業現場でも機械化が進んでいますので、こういうものを習得して少しでも導入できる努力をしてみたいと思います。そうして、少しでも3Kのイメージをふければ人材確保に努めることになると思っています。

内海 私共の協会の中でも、植栽工事を専門とする業者と土木建築を兼ねた総合業者とがあり二極化しているが、今後更に二極化が進んでいく気がしています。どちらの方向に進んだ方がよいのか迷っている方も大勢いることと思えます。色々な方向はあるにしても、最大の仕事は景観を造ることだと考えています。私の所では土木部と造園部があり、どちらの部で施工したらよいのか迷う場合がありますが、出来栄を見ますと、土木部で造つた作品に比べて、造園部で造つた作品は比較的

造園部の方では、景観・デザインと植物又は生態系を意識しながら造っているからだと思

思っております。

中澤 森先生にお願いしたいことは、生徒がやる気がないように感じられますので、やる気を起こさせるように指導をしていただきたいと思

います。例えば、花博の時、大阪の高校の生徒があれだけのことをやつたんだから、やれば授業も面白くなると思

います。現状、生徒がやる気なのは事実だと思います。今、こういうカリキュラムをつつたら生徒が面白くなり、ついてくるか悩んでおります。今、メディア時代で薬の方へ、格好のよい、面白い方向へ進む傾向があります。また、入学の時に造園を学ぼうと希望して入ってくる者が、皆無に近いということも教育上問題でしょうね。



乗松 これは造園ばかりでなく、他の所でも同じ様

めに勉強してきたのかと云うこともなるが、現実はその様で、入社しても勉強ま

です。また、若者は拘束されること嫌い、休みが自由に取れる所、パートを好む傾向があります。何事にも責任を取りたくないという意識も強くなっているの、採用も難しくなつてきています。こんな事を嘆くとまた人が来なくなつてしまつたことを恐れています。森 業界の方もやたらに人手不足と云うことで、採用し過ぎるのではないのでしょうか。却つて、もつと採用試験を難しくしたらどうでしょうか。

乗松 そんな事をしましたら、ますます人が集まりませんよ。**内海** 造園工事は始めから高度な知識を持たなくてもよいと思

います。充分、現場で教育できればやっていると

思

います。学校側では、生徒を送り出す時は、本当に折る気持ちです。折角入社しても半年位で辞めることがある。これは、

造園業の経営者に問題があり、育て方が悪いからだと思っております。

乗松 学校で教わることは基本的なこと、きれいなごとの話ですが、現場では色々な場面です。それぞれ対応の仕方が違ってくることもありま。

岡田 新採の人たちには良い先輩がアドバイスすることが大切で一生懸命やればあの様なすばらしいものができるといふ誉め方、励ましが必要ではないでしょうか。同時に、現場での厳しさも教えねばなりません。

中澤 静岡県が造園業が活発になれないのは、県に公園建設部がないからだと思えます。浜北市にある県の森林公園事業に、私の所も参加させてもらいましたが、仕事は一番詳しい造園業者に任せるべきでしょうね。他県でも公園関係の部がある県は、公園に力を入れています。林業と土木の職員が交流関係すれば、より充実して行くと思えます。浜松市は公園緑地部ができたので課もでき、管理事務所ができ充実してきました。造園業界の中核である県造園緑化

協会が中心となつて、県へプッシュしてもらいたいと思っております。

森 役所の方にお願したいことは、県に大規模公園課ができてもクローズアップされるのは土木・建築であり、造園は影が薄いと思います。造園はランドスケープと云われるように、全体の修景を含めてやる所だか、という認識がクローズアップされない。腑に落ちないと思つています。

中沢 はつきり云えば、造園業者の力がなからずして、私は曾て浜松市の駅前空間を造る時に建築物だけでなく、できるだけ造園業を盛り込めた。これも総て造園業者がやってくれました。

森 住民が緑に対してもっと発言しないといけませんね。そうすれば生徒も、造園はすばらしいものだと思えるようになると思えます。今のような造園業者が、植木屋という考えでは将来が心配です。**内海** 造園業には、技能者も技術者がいます。技能者も必要ですが、今、非常に不足

て困っているのは官庁工事の現場管理を担当している技術者です。事務量が多く、夜遅くまで仕事をせざるを得なくなり悩んでいます。この技術者の対応が、育てることも含めて急務だと考えております。

二十世紀に向けて、造園技術が次第に見直されてくると思いますので、学校から私共業界に人材を送り込んで欲しいと思えます。

岡田 役所の公園予算を造園業者がとれるようにするには例えば役所が一つの大きな公園事業を考え、絵を描いたとします。その後で請けた造園業者が具体的に絵を描ける人ができるかが問題です。植栽だけが主では駄目で、建築も含めて絵が描けないと造園業者の方へ仕事が回ってこないのが実情です。

中澤 私共は、公共施設では総事業費の三割は緑化に回すよう運動していますが、仲々そうはいかないのです。**岡田** 市の場合は、学校緑化は今迄は住宅宮積課の人達が絵を描き、残った金で植栽してきましたが、今では緑化推進課の技術者が設計していま

す。だからその工事ができる造園業者の技術者が欲しいのです。これから特に、屋上緑化が進んでいくと思いますが、その時に、建築と同等或いはそれ以上の発言力を持つには、絵が描けないようでは相変わらず下請けで終つてしまうと思えます。

森 発注する時に、コンサルタント業者に出し、造園業者の下請けさせるのではなく、造園業者を対象に設計コンペをやつたらどうでしょうか。

中沢 仮にコンペに出しても大手が取り、下請けの造園業者にやらせるのが現状です。造園業者の三者一体のレベルアップが大切だと思います。特に静岡県の場合は、コンサルタントの分野が遅れており、育ていかねばならないと思えます。

中沢 公園の設計を大手のコンサルタント業者が頼まれても下請けに流してしまい、本当の技術を発揮していない気がします。**榎井** 今日のお話しの中で感じた点は、これからは品質・デザインも含めて価格競争を



していかなければならない。それには、技術アップが大切だということを迎え入れました。

また、生徒を育てるには家庭や学校側にも問題があるにしろ、私共造園業者が魅力あるものにしていかないといけないと感じています。世の中に、時短の方向に進んでいるのに、雨が降つたら休ませるという考え方では、時代遅れでデート・スポーツ・レジャーも折り込んだ時間設定も必要でしょう。また、給料体系も改善していく必要があります。つまり、当り前のことがきちんとできれば魅力ある企業にもなれるし、先生方も就職の斡旋を大手を振つてお願いできると思えます。

内海 屋上庭園のお話しがありまして、自然復元とかビオトープなどについてどうお考えでしょうか。

岡田 すぐに取り上げるべき問題とは思っておりません。と云いますのは、浜松市の場合は佐鳴湖などの自然も残つ

ておりますのでこれらの保全が急務とされています。それは別に、これからは花をあらしらつた緑の空間の要請がでてくると思っています。材料が少量、高価でも質の良いものが要求されてくると思っています。例えば、ハナミズキやカンツバキもそうだと思っています。公園や街路の中でも花をあしらつたものがでてくると思っています。法面緑化、親水公園なども増えてくると思っています。そうした仕事も官民一体となり、切磋琢磨していけば仕事は増えてくると思っています。市民の要望も強いので、今後大きな公園がどんどん出てくると思われますから、その時に他の業種の人に横取りされないよう、土木・建築も分担できる態勢固めを県造園緑化協会が中心になつてやつていけば、明るい展望が開けると思っています。

内海 自然生態系を重視することは良いことだと思いますが、これを取り組むのは造園業界だと思いますが、市の対応は如何でしょうか。

中村 役所ではどの業者にやつてもらうのか決まっていな

いが、当然、造園業者が取り組むべき分野だと思います。緑については、極端な人は緑ならば何でも良いと云う方もいますが、やがてそれは飽きられ、ビオトープのような本物の自然要求も出てきています。緑に対する接し方も色々のレベルの取組みが出てくると思われまふので、勉強していつでも取り組める態勢をつくつていただきたいと思

います。**岡田** 役所の取組みも、今迄はビオトープと云えば公園課が担当すると云えたのですが、最近では色々の部署で取上げるようになってきておりますので、何処が担当するのかわからなくなつてきております。市の中でも親水公園は公園課・下水道課・河川課も造つております。また学校でも、教材用としてビオトープを造つています。建設省・農林省なども生態系なものを取上げていますので、これからは色々のところで取上げてくれるでしょうね。

中澤 色々なところで緑化が取上げられるようになると、市町村は国・県からの予算獲

得などで大変ご苦労されると思っています。



内海 長時間に亘る話発
なご発言
ご助言を
いたした

感謝致しております。このよ

うな有意義な会議を今後引き続き重ねて、私共の業界の発展に結びつけたいと思つております。二十一世紀は造園業界は造園ばかりでなく、環境産業も担当することになると思

います。学校に対しては、造園の仕事は創造性のある楽しいものだという理解で、生徒を指導していただきたいと思

います。まだまだ待遇面に至らない点が多いのですが、改善努力をして参りますので、宜しくお願

(文責・事務局長 平野)

平成五年三月



県造協と沖繩海洋博

源平造園建設株

専務 源 平

太

昭和四十年代、東名高速道路の各種植栽工事に伴い発足した県造協が、大阪万国博覧会等で一般社会で造園工事に関する認識が高まって来た昭和五十年、沖繩が日本に復帰したことを記念して開催された沖繩国際海洋博覧会に当県造協も海洋博造園第四回建設企業体を組織し、海洋博会場修景植栽その五工事を受注し施工致しました。

工事の主な内容は、会場内通路両側に植樹帯を設けて関連した園路への植栽を芝貼りとした。当工事が最終段階での発注のため工期も異常に短く、五十年五月初めに七月十日迄の約二ヶ月間に四千万円近い、当時としては大型工事を消化しなければならず、その上設計樹木の幾つかは、既に発注された工事で沖繩本島には余り無く、一部は石垣島、宮古島方面から船で取り寄せなければ扱わない状態でした。使用された主な植物は、色々なヤシ類の他にオキナワキョウチクトウ、フクギ、デジュ、ハマボウその他ではなかったかと思

います。沖繩で初めてのイベントで、工事関係やその他の業務の急増が作業員の極端な不足を来し、最終段階の工事のために作業員集めに苦労しました。造園工事の無経験な人達も多く、芝生を裏・表を逆さに貼つていたという事もありまし



● 国営沖縄記念公園

この一画に修景植栽工事を行った。

写真提供 沖縄県造園建設業協会

た。現場には珊瑚礁岩が多く、大きな樹木の植穴掘りや鳥居支柱杭の打込みに穴はブレイカーを使用しながらの作業でした。又工事中、水の蛇口の数が少なく、水の確保や降雨にも苦労しました。

会場近くの民宿に他の企業の人達と泊って居りましたが、工期の終わり頃には深夜作業で宿に帰らない人も増えました。私達も作業員が帰ってから夜遅く迄片付をしたり、明日の準備に夜業が増えましたが、お蔭様でオープニングの三日前に植栽工事の中

では他の人達より早く完成し清掃し、書類提出も終わり、夜の会場をゆつくり見学して廻りました。会場内はまだ至る所で照明灯の下での追い込み作業の姿をみて、胸をなでおろしました。翌日はコバルト色の海を眺め乍ら、各地を観光で廻った事が一番楽しかったと、今でも感じております。雨が多かつたお陰か枯損樹木もそれ程ではなく良かったと思っております。翌々日、当企業体参加の全員の社長様方が開会式典に出席されました。

生きもののすむ森づくり

● 静岡県グリーンバンク

静岡県グリーンバンクで、「生きもののすむ森づくり事業」を実施して三年目を迎えます。これまで、三ヶ所が完成しました。

た本事業について、小笠町南幼稚園の例をひいて紹介いたします。

小笠町立南幼稚園は、南を高橋川に接し、三方が田畑に囲まれた面積約九千平方メートルの敷地を有しています。敷地の約六割は幼稚園で使用しますが、残り約三千平方メートル余がこの事業で実施する範囲です。西側には高さ二

いうまでもありませんが、近年の都市化の発展が我々の身の周りの自然を無機物により覆ってしまふ結果となり、子供達が生きもの遊び、自然のしくみや生命の尊さを学べるような場所や環境が著しく減少してきていることは、まことに淋しいことです。

このままでは、近い将来、身の周りから自然が無くなってしまうことを危惧し、これらを復元・創出していこうという動きが最近、とくに活発になってきています。

緑化事業の役割は、単に緑を増やすためだけでなく、自然復元を盛り込んだ緑地の造成や、点としての緑地から面としてとらえる緑のネットワーク化など、多様化しています。このような背景からうまれ

けるもの(イイギリ、ムクナギなど)③鳥がくられ場所をつくるもの④昆虫の幼虫の餌となるもの(キハダ・カラスザンショウなど)⑤昆虫の成虫が好む花や樹液をもつもの(フッドレア・クスギなど)を

エンブレムと呼んでほしい。

実力を秘めたさりげなく、しかも、装うものの存在感を確実に伝える...

インプレムのテーマは樹木のエンブレム。

自然という名の

偉大なアーチストのプレステージには、

エンブレムこそふさわしい。

「自然」に最も近い言葉
株式会社 **インプレ**

本社：〒420 静岡市市南町13-12
TWIN COREビル
PHONE：054-272-6375

●インプレムのプレートは職人への配慮を重視して、デザイナーも意欲の多い専門企業によるジョイントワークによって作られています。

小楢

ブナ科
Fagaceae

コナラ

QUERCUS SERRATA

暖地の雑木林を代表する落葉樹。ドングリができる。材はシイタケの原木となる。ナラの語源は不明、楢は俗字。



考慮して植栽。さらに⑥自然景観的にみて適しているもの⑦植物の学習にも役立つものなどを含め、植栽・移植したものは中高木五十種、低木二十二種、水生植物七種となっています。これらの中には、イイギリ・ゴズイ・ハクツウシボク・ウワミズクラなど、生産販売されていない樹種も含まれていますが、これは林業技術センターが緑化木の研究に作った苗がグリーンバンクの仮植場で大きく成長したものです。樹木の植栽の密度や位置については、野山の自然を観察すると、密なところ、疎なところ、樹木がなく空地となつている草原・荒地・畑・それぞれの移行的・中間的なところ、というように、様々な多様性をもっていることがわかります。このような多様な環境こそが、いろいろな種類のいきものがすめる空間となつていきます。したがって出来るだけ自然の状況になり、多様な空間づくりを気を配って植栽する必要がありますといえます。

池や流れは、鳥の水飲場や水あび場、トンボの発生場所

その他水生小動物や水生植物が生育するなど、多くの生きものがすめる環境として重要であります。一般的にみて、公園などに造られた池や流れは景観的には優れているものが多いが、生きものにとって環境からみた場合は、残念ながら十分であるとは言えないと言えます。この幼稚園の場合には、以前桶ヶ谷沼に専門家の意見を聞いて造つたトンボ誘致実験池を参考にして計画したものです。これによると、

- ①池を深くしない(最深四センチメートル程度とした)
- ②岸辺にむかつてゆるやかな勾配とする③岸には構造物はあまり造らない④岸辺などには水生植物を植える⑤コンクリートは打たずシートと粘土で漏水を防止するなどを基本としています。又、鳥の水浴びやトンボの生育にとって止水より流水が好ましいので、水の供給のために町の単独工事で井戸を掘るように計画していただきました。池を造るにあたって一つの問題は、水生植物をどのようにして手に入れるかということです。ハナショウブなどは園芸品種で

あるので、この池には不自然です。自生種の販売はほとんどなく、このためここで植栽した水生植物は、静岡市の麻機沼のもので、ここは古くから湿地や沼が広がっていて多くの水生植物がみられるところでした。この植物を利用させていただくにあたり、麻機沼を遊水池として整備し、管理している静岡土木事務所の了承をいただき、秋に採取し、その後、春の植栽までの管理を当園協の静岡市の会員の方にお願ひしたものです。種類は、オモダカ、サンカクイ、ヒメガマなど七種類あります。

この設計には計上しませんが、タンポポやスミレなどの草花やヒジ、コウホネなどの水生植物の補植のほか、近年めつつきり少なくなつたメダカの放流も行つていつたらと考えています。なお、しばしば池にコイを放流することが多くありますが、コイは雑食性で池の中の小動物をはじめ、水草も食べてしまうので放流は絶対しないこととしました。

この幼稚園の整備をするこ

でも復活し、幼稚園児や近くの小学校の生徒達の遊びや学習の場となり、子供達に自然に対するやさしい心が芽ばえてくればと願っています。平成六年度は、掛川市の桜木保育園など四ヶ所を予定し

ています。今後とも、各地にいきもの住む森が誕生するよう、力を入れていくつもりですので、県造園緑化協会におかれましても、御支援されたくお願いいたします。

小笠町立南幼稚園
生きものすむ森づくり事業植栽平面図



県自然保護課の紹介

造園緑化協会と関連の深い自然保護課は、課長、参事、課長補佐と六係一スタッフ、合計二十四名で構成されています。

各係の業務の概要と最近のトピックスを紹介します。

■総務係

課全体の予算の執行調整や、職員給料、旅費等に関する事務を受け持っています。

■企画指導

「緑化推進計画」の進行管理や、花と緑に包まれた生活環境づくりを進めるため、県・花の会連合会の協力を得て、「二年一木一花運動」を推進しています。また、グリーンバンク、造園緑化協会及び環境緑化事業協同組合等が行なう緑化相談や巡回指導等の事業に助成しています。
・富士山緑化環境対策事業に

おいては、平成七年度に指針の作成にむけ、各種調査、検討を行います。平成八年度開催の予定の自然公園大会の事前準備も担当します。

■自然保護係

かけがえのない自然環境を保全し、後世に継承していくための業務を担当しています。貴重な動植物の生息地などは、自然環境保全地域に指定し、保全のための指導を行っています。その他の地域における土地利用については、豊かな環境の実現を指導しています。さらに、自然保護意識の普及、啓発のため自然観察会の開催や巨木フォーラム等を支援しています。

■自然公園係

自然公園の保護と利用の調整を図るため、主として許認可事務を担当しています。本係には、富士箱根伊豆と南アルプスの国立公園、天龍奥三河国立公園、日本平、奥大井、御前崎、遠州灘、浜名湖の県立自然公園があります。これら公園内で、風致景観の現状を変更する行為は、事

前の許可等が必要です。年間一、〇〇〇件以上の許認可件数をこなしています。

■鳥獣保護課

野性鳥獣の保護と狩猟に関する業務を担当しています。

第七次鳥獣保護事業計画に基づき、ニホンザル、ハクビシンの生息調査を行っています。また、保護施策の中心となる鳥獣保護区の設定は、十四万六千ヘクタールに達しています。狩猟者は現在八千人、捕獲数は狩猟、有害駆除合わせて、年間十萬頭になっています。また、愛鳥週間には、野性生物保護活動功労者等を表彰し、各地で探鳥会も行っています。

■施設係

・静岡市井川の県民の森、天城山の昭和の森と小笠山の三ヶ所にある観察、休憩等のための施設の管理運営を行っています。
・グリーンバンクが行う事業に使用する緑化木の一部を、富士市、中川根町、浜北市の三緑化センターで生産しています。

・その他、身近な自然生態系を創造し、保全するための自然環境、復元事業と、松並木等、保護保存事業を市町村への助成により、実施しています。

■環境緑化係

・グリーンバンク事業のハー下部門の窓口として、年間一〇〇余ヶ所、五億数千万の公園・街路等の緑化工事を指導しています。

ガーデンエキスポ'93 & ヨーロッパ視察旅行記

株東海フオレスト

営業部長 福代米男

十年に一回開かれる世界庭園博覧会（ガーデン・エキスポ）が今回は、一九九三年四月二十三日～十月十七日、ドイツ連邦共和国のシュツットガルト（STUTTGART）において盛大に開催されており、(株)静岡県造園緑化協会では、この視察を中心にヨーロッパの庭園、造園の視察を目的にヨーロッパ研修旅行を実施することとなり、ヨーロッパの庭園、造園はもちろんピオトープ（生態系復元、自然環境復元地域）に強い関心をもっていたことでもあり、大いなる期待をもって視察団のメンバーの一員として参加した。

旅行記という程のものではないが、記録の一端を披露します。

「生きもののすむ森づくり事業」は三年目を迎え、完成が三件、本年度三件の施工を予定しています。

・その他、富士山の植生復元モデル事業として、フジザザミ等の植付会や「県さくら会」の事務局として、県内さくららの愛護思想の普及や、ゴルフ場を中心とする松くい虫対策を担当しています。

明るい緑とあふれる花

六月十二日(土)

空路ヨーロッパへ

森川団長(関東海フォレスト・代表取締役会長、平野協会専務理事以下総勢二十四名のメンバー)は、成田国際空港に集合。

十四時発ルフトハンザ航空三九八便にて一路ドイツ・フランクフルトへ。

離陸後、好天に恵まれ霊峰富士が雲海の上にくっきりと勇壮な姿を表わし、西方はるか立山連峰を後にして、日本海を通過、北海道・樺太(サハリン)を東方眼下に北上し、二時間後ロシア大陸の上空へと飛行、行けども行けども明るい、夜と氷雪原が続く、これが白夜とツンドラなのか。大雪原の中をゆつたりと蛇行する大河、まるでテレビの画面を見ているかのような、夢の中の世界のような気がする。フラックフルト到着まであと三時間程のアナウンスのころ、バルト海上空にさしかかる。まさにヨーロッパに来たのだなという気持ちになる。

大雪原から森林帯そして緑一面の畑原、郊外の街並と変化に富んだ十二時間の空の旅を終え十二日十四時フラックフルトに到着、他の航空便に乗りかえ一時間程で目的地シュツツトガルトに到着。

薄暮のシュツツトガルトは、肌寒くさへ感じられ、さわやかな気候で、札幌と同じような気候だ。真夜中ホテルに入る。ドイツでの第一夜を迎える。

六月十三日(日)

ガーデン・エキスポ'93視察

早朝、バスにてシュツツトガルト市内見物、シュツツトガルトは、バーデン・ヴェルテン州の州都で、南ドイツではミュンヘンに次ぐ大都会でありあつてなかなかの都会である。

自動車で有名なベンツ社とボルシェ社の本社がある街と聞いており、さぞ両社の宣伝があらわらにあらうかと思いきや、なんと中央駅の屋上にベンツのマークが堂々と飾り付けられているのみで、両社の自動車博物館以外には見あたらないのは少し驚いた。十九世紀前半、アレキサン

ダー・フンボルトが世界で最も美しい七つの都市のひとつとしてこのシュツツトガルトをあげていたとのこと、自然の美しい緑に囲まれた街並、美しい中世の宮殿や大聖堂も今に残されているとガイドから聞く。明るい緑と花いっぱい美しい街との印象を受ける。

街内で、ニッカボッカにチロルハットのアルペンスタイルの男性やまるでアルプスのハイジのような可愛い服装の女性などよく見かける。

ガーデン・エキスポ'93会場へ。自然の劇場。ともいえる一〇〇ヘクタールと広大な面積の会場は旧都市公園をはさんで四つのエリアに分かれ、そ

れぞれのエリアをモノレール(未来型トレン・パノラマレイルウェイ)で結び、参観者の足となっている。

花と緑、造園に関する展示はもうろ世界的に関心が高まっているエコロジー問題など自然と人間の調和に焦点を合わせた国際博覧会であり、各国とも出展の庭園には趣向を凝らしているが規模的には小さいように感じる。その中にある中国庭園だけはなかなか見どころ多く力量感あふれるものである。各国の庭園と庭園の間には、イベント広場が幾カ所から作られており、民族衣装の各国の青少年達が集い楽しんでる姿に国際行事だという実感がわいてくる。会場のあちらこちらに有料のアレハブトレイが並んでおり、入口には料金徴集のため青年が立っている。トレイの屋根部分には芝生や雑草が植えられている。こんなところにも「緑」を大切に思う気持ちがな

んともうれしく感ずる。

七〇八ヘクタールのゆるやかな広地に、中央にイベント

テントサイトがあり、小さな沢筋に沿って見学できるように案内コースが設定されている。ドイツの野生植物だろうか、日本では亜高山帯から高山帯に分布する。

グンナイフウロウ・オオサクラソウ・ニッコウキスゲ・ウサギギク・シキンカラマツ・ヨツバヒドドリバナ、そしてワスレナグサ科のミヤマムラサキ等が咲き乱れ花であるが、日本では稀少な草花であるが、この会場やシュツツトガルト地方がこれらの植物の郷土であるにせよ、人工的に増殖したにせよ、この地に保存・保全し、人々が楽しんで見られる環境づくりの心

■シュツツトガルトのガーデンエキスポ'93会場



□ビオトープを積極的に推進

ユヴァンガウへ

ドイツ最南の街ホーエンシュヴァンガウへ

六月十四日(月)

一日であった。

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。

造園の特色、ドイツにおけるピオトープへの取組み等、

造園緑化にたずさわる者として大いに参考となり有意義な

一日であった。



口は園柄を充分發揮した庭園が並ぶ会場

ザルツブルグにて、ミラベル

ルツブルグへ。

われわれを乗せたバスは、

ロマニチック街道を走る。中

世の姿そのままの木骨組の家

並、広大な丘陵、田園、森、

小川そして湖沼と美しい景色

に見入る。やがてバスはドイ

ツからオーストリアに入りザ

ルツブルグへ。

オーストリアへ

六月十五日(火)

絶壁の上に超然とそびえる白

鳥の城は、まるで美術館で絵

画を見ているような、また

おとぎの国にいらるような錯覚

に陥るほどである。城の裏手

にあるペラト峡谷にかかる

高さ九十二メートルのマリ

エン橋から見るこの白鳥の城

は、また一段と神秘的である。

アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

と。アルプ湖を見おろすこ

庭園視察

花壇と噴水そして彫像、十

八世紀の美しい庭園で正面に

ホーエンザルツブルグ城を望

む景色は素晴らしい、デー

サロメ・アルトが愛する女性

たという宮殿(現在はコンサ

ートや結婚式に利用されてい

るとのこと)も実に美しい。

モーツアルトの生家見学

黄色の建物で、四階がモ

ーツアルトが七歳まで過ごした

家とのこと。現在は記念館と

なっており、自筆の楽譜や初

めて使ったバイオリン、ピア

ノ、少年時代の肖像画等が展

示されている。クラシック音

楽には疎い自分までも何かク

ラシックを聞いているよう

な気がしてくるのは不思議

である。

ホーエンザルツブルグ城見学

市街を見おろすメナムヒス

ベルク山上にそびえる大司

教の居城で一〇七七年に建

てられたとのこと、当時そ

のままに残っている中欧最

大の城とのこと、雄大な城

である。

六月十六日(水)

ザルツ・カンマーグート経

由ワイーンへ



■花壇と噴水、彫像のすばらしいミラベル庭園

「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台となった美しい湖源地帯のザルツ・カンマーグート。二、〇〇〇メートル級のヨーロッパアルプスの峰々に囲まれた五〇〇〇八〇〇メートルの丘陵地に、アルプスの水河が造った大小七十六もの湖が散在している。これらの湖のひとつツワルプガング湖が印象に残る。この湖は標高五四〇メートル東西に細長く二・五平方キロメートルの湖で、エメラルドグリーン湖の水に教会の白い塔が映り、北岸には絶壁が続くなんとも言えぬ美しい湖である。ドイツ人が好む地とのことで、



SKS
SINCE 1970
SHIBUTAKE

株式会社 スパジオ・シブタケ

静岡市田町2-79-2 TEL.054 255 2285

SIGN

環境開発は造園とサインで。

コール首相も時々避暑に見えるところのこと。

夕方ウィーンに到着、団員の森和子さんの誕生日ということで、ホテルにて視察団全員で誕生会を催し、楽しいひとときを過ごす。

六月十七日(木)

音楽之都ウィーンの日

「音楽之都」森之都」そして「パロツク之都」ウィーン。

シエンブルーン宮殿視察一

ベルサイユ宮殿に対抗して

建てられたともいわれ、ユ

ロッパで最も壮麗な王宮で、

オーストリア最大の宮殿(室

数は一、四四一)とのこと、

映画「会議は踊る」で知られる

ウィーン会議の舞台として

有名で、公開されている部

屋の中で、六歳のモーツァル

トが演奏したといわれる鏡の

間、ウィーン会議の舞踏会場

になったといわれる大広間は

実に美しい。庭園はフランス

式庭園で面積は一・七平方キ

ロメートルあり、花壇や芝生

アーチ型の並木路など広がり

見事な彫像が散在している。

また、後方の小高い丘には石

造りの夏の館が建ち、ここか



ウィーンのシエンブルーン宮殿のフランス式庭園

である。ヨーロッパの庭園の特色を挙げてみると

●イタリヤ ルネサンス式(テラス式)

傾斜地を使用し、階段式の踊り場部分をテラス式にして、平面を生かす。

●フランス 平面幾何学式

左右対象の美を見せるのが基本。

●イギリス 風景式(自然的)

ヨーロッパでは画家や建築家と評される芸術家が、庭園の設計をしてきたこと。

☆西洋庭園 機能・使用重視

☆日本庭園 見ること、見せることを重視

ベルヴェデーレ宮殿見学一

この宮殿はなだらかな斜面

に広がるプリンツ・オイゲン

公の夏の離宮で、上宮と下宮、

その間の広大な庭園からなり、

上宮から庭園越しに眺めるウ

ィーンの旧市街の家並みは、

うっとりするほど美しい。残念なことに、宮殿は修理中のも

足場がかり、宮殿そのものは見ることが出来なかった。

この日は旅行の最後のゆつたり出来る夜ということで、ホリイグ(居酒屋)にて会食

た。店内にはベルリンから来たという老夫婦のグループとか、日本人観光客もみえ、食事中各テーブルにバイオリンとアコーディオンの流しが来てリクエスト曲を弾いてくれ、ワインも飲み放題という中で、途中からはドイツの老夫婦グループと一緒に、歌に踊りに意気投合し、楽しい思い出に残るヨーロッパ最後の夜を乗りこむ。

六月十八日(金)

いよいよ帰国の日

飛行機の前で都合で午前中は自由行動となり、団員個々にウィーンの街へショッピングに出掛ける。歩行者天国の街中にはいろいろな商店があり、道路には所々にカフェテラスが設けられ、のんびり

と買物出来る雰囲気である。言葉がドイツ語で少し苦勞するも、これも楽しい経験である。

十四時四十分、ウィーン発フランクフルト経由ルフトサンザ航空七〇一便にて帰国の途へ。

六月十九日(土)

機中泊、十一時成田着、同空港内にて解団式

視察旅行団総勢二十四名は旅先での多少のハプニングはあったものの、無事帰国出来たとの安堵感から全員笑顔一杯である。森川団長より全員の協力に対してお礼の挨拶があり、続いてこの旅行を計画した企画委員長の福井氏より参加へのお礼の言葉、最後に平野専務理事の解散宣言で、有意義だったヨーロッパの旅を終え各自帰途についた。

私自身、初めてのヨーロッパ視察であったが、歴史と伝統を大切に、自然と人間の共生の中から将来への展開へと願う人々の姿勢を目の当たりに見せられ、また、この旅行中、国内では自民党が分裂し、県内では斎藤知事が辞任されるなど、短い間に何か貴重な体験を与えられた旅であった。

造園緑地用土壌の物理化学的検査

その他農園芸関係、農産物等の検査、分析

計量証明事業所
静岡県登録第122-6号

株式会社 エコプロリサーチ

〒424 清水市渋川100番地

☎ 0543(48)5274

FAX 0543(47)7446